

平成28年度
岡山県内におけるカワウ生息調査報告書
(夏季流域調査)



日本野鳥の会岡山県支部

平成28年 9月

I. カワウ調査の目的

1. カワウ調査の目的

本調査は、近年個体数の増加により、採食地である湖沼・河川において人間活動との軋轢が増加しています。しかし、過去に著しく生息数が減少して絶滅の危機にさらされたこともあることから、生息数調査および行動実態調査を行い、県下においての人との共存の基礎資料とすることを目的としています。

2. 岡山県の今までの経緯

- ・平成20年度にカワウの全県生息調査を実施
- ・平成26年7月に「中国四国カワウ広域協議会」が発足
- ・平成27年2月に「岡山県カワウ対策協議会」が発足
- ・平成27年度 本県のカワウ生息状況調査を実施
- ・平成28年度 本県のカワウ生息状況調査を実施

II. カワウ生息状況調査計画

1. 年間計画

夏季、冬季、繁殖期の3回を予定する。

- 1) 夏季の調査は、7月上旬から8月上旬に、河川・湖沼および海域に分布する巣立ちをした若鳥も含め、県内の総羽数を調査する。
- 2) 冬季の調査は、「冬ねぐら」を中心とした場所で11月下旬から1月上旬にかけて、その利用羽数を調査する。
- 3) 繁殖期の調査は、カワウが繁殖に入る4月下旬から5月中旬に繁殖地（コロニー）における羽数と営巣数を調査する。

2. 夏季の調査計画

7月上旬から8月上旬までの間、調査員が集まりやすい土曜日を主体として、本年巣立ちをした若鳥の含めたカワウが夏季において、どれほどの羽数が県内に生息しているか、河川・湖沼および海岸域をルートセンサス方式で羽数をカウントする。調査に当たっては、数台の調査用車両を準備して2～4人が乗り組んで河川に沿って川面に居るカワウの数をカウントする方法をとる。なお、調査には8～10倍の双眼鏡と必要に応じ20～40倍の望遠鏡を使用してカワウであることを識別する。

1) 吉井川水系の調査（7月9日と7月16日に実施。）

- ・Aコース 1日目・2日目：吉井川河口から本流 奥津湖～恩原ダムまで
- ・Bコース 1日目：金剛川、八塔寺川・八塔寺川ダム、日笠川、滝川、切池
2日目：吉野川、梶並川・久賀ダム、後山川
- ・Cコース 1日目：広戸川・塩手池、加茂川、津川・津川ダム、黒木ダム
2日目：津山市の宮川、皿川、倭文川、久米川、香々美川

2) 旭川水系の調査（7月23日と30日に実施。）

- ・ Aコース 1日目・2日目：旭川河口から本流 湯原湖上流部まで
- ・ Bコース 1日目：児島湖、倉敷川、笹ヶ瀬川、足守川
2日目：百間川、砂川、児島湾
- ・ Cコース 1日目：宇甘川、誕生寺川、備中川
2日目：河内川、目木川、新庄川、月田川

3) 高梁川水系の調査（8月6日と8月13日に実施）

- ・ Aコース 1日目・2日目：高梁川河口から本流 千屋ダム上流部まで
- ・ Bコース 1日目：里見川、小田川、美山川
2日目：成羽川
- ・ Cコース 1日目：有漢川、佐伏川、小阪部川
2日目：西川、本郷川、三室川ダム、高瀬川ダム、熊谷川

4) 海岸域の調査（7月18日、7月24日、7月31日に実施）

Ⅲ. 夏季のカワウ生息状況調査結果

1. 県内全域の生息状況

調査結果から県内全域の生息状況については以下の状況であった。

- 1) 県内全域での生息羽数は、2,119羽を確認した。
- 2) 吉井川水系、旭川水系、高梁川水系、海域における生息羽数分布

表-1

	吉井川	旭川	高梁川	海岸域	合計
確認羽数	331	526	460	802	2,119
確認割合	15.6	24.8	21.7	37.9	100

* 確認羽数は実際に確認した羽数、確認割合はその%を示す。

確認割合を図-1に示す。

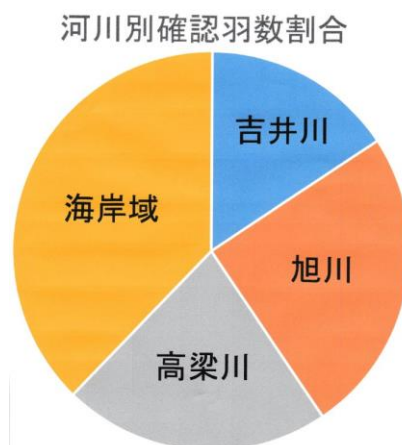


図-1に示すよう、河川流域では約300～500羽が生息している。海岸域ではその数が増加し約800羽と2倍近い数の生息が確認された。

3) 市町村別の生息状況

表－２（確認羽数の多い順）

市町村名	岡山市	倉敷市	高梁市	備前市	玉野市
確認羽数	581	322	190	142	123

市町村名	美作市	瀬戸内市	新見市	真庭市	総社市
確認羽数	118	113	100	87	60

市町村名	笠岡市	美咲町	井原市	和気町	津山市
確認羽数	52	44	35	35	28

市町村名	矢掛町	浅口市	勝央町	久米南町	赤磐市
確認羽数	25	19	19	9	8

市町村名	鏡野町	吉備中央町	奈義町	新庄村	西粟倉村
確認羽数	5	4	0	0	0

上の表から上位 10 位の県内生息確認割合（％）を示す。

表－３

市町村名	岡山市	倉敷市	高梁市	備前市	玉野市
確認羽数	27.4	15.2	9.0	6.7	5.8

市町村名	美作市	瀬戸内市	新見市	真庭市	総社市
確認羽数	5.6	5.3	4.7	4.1	2.8

の割合になる。岡山市での生息数が圧倒的である。次に倉敷市が続いている。これは、岡山市は、吉井川の河口と旭川の河口と大型河川の河口部を 2 つ持ちさらに、児島湖と児島湾なる水域を抱えているからである。

倉敷市は、高梁川の河口を持つことでカワウの生息数が多くなっている。海岸域を所有しているが、大きな河川河口を持たない備前市や玉野市、瀬戸内市の生息羽数はそう多いものではないことが分かる。

高梁市の順位が 3 位と高いのは、高梁川に沿った地区に大きなコロニー（集団繁殖地）が有るからである。

4) 全県下の生息分布状況図

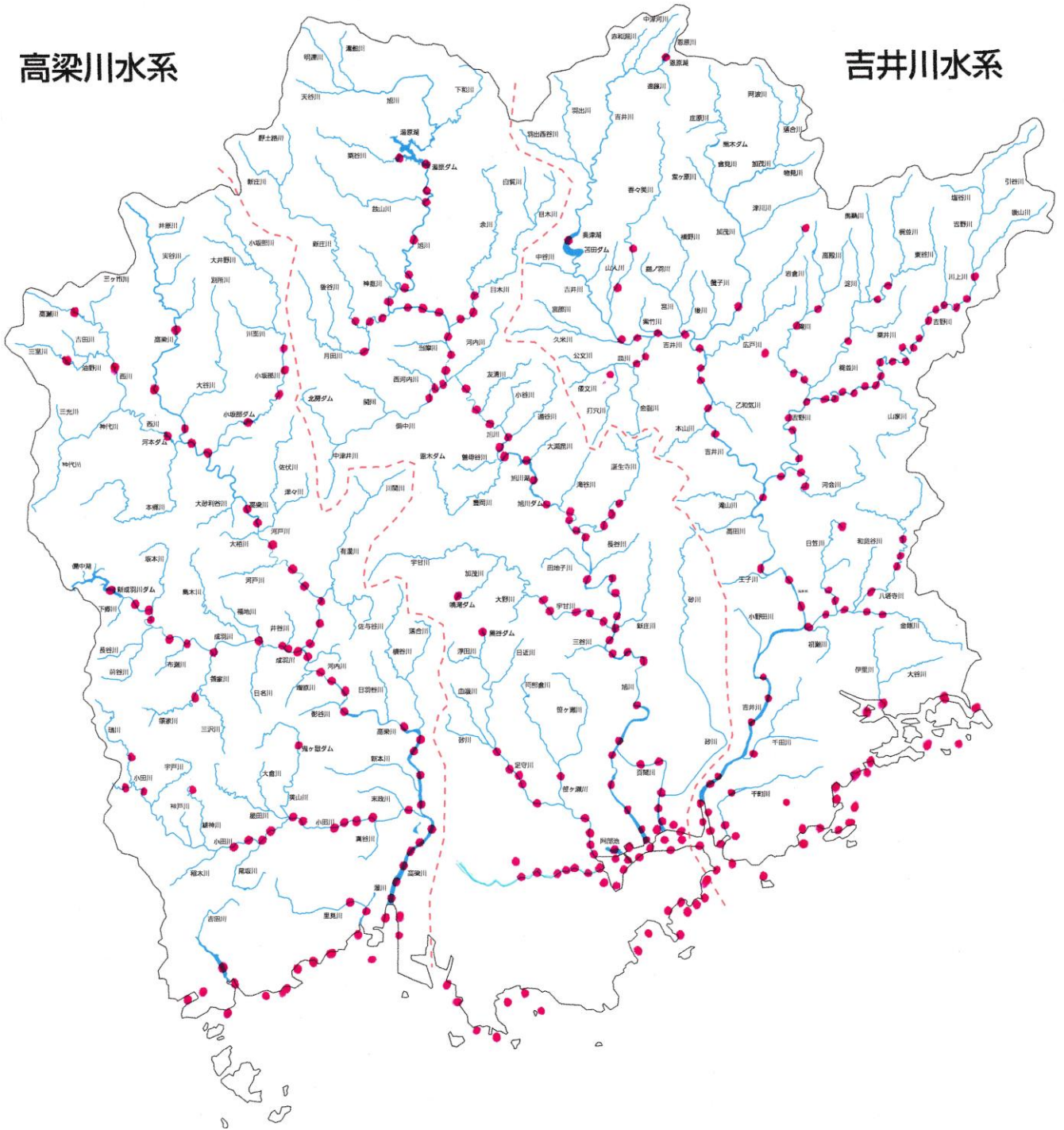
図-2

岡山県のカワウ生息分布図

旭川水系

高梁川水系

吉井川水系



カワウが確認された場所のプロット数は、311 地点になる。(昨年、平成 27 年のプロット数羽 257 地点であった。)

吉井川水系で 86 地点、旭川水系で 108 地点、高梁川水系で 64 地点、海岸域で 53 地点であった。確認地点が集中するのは、児島湖・児島湾を中心とした地域である。その他の吉井川水系、旭川水系、高梁川水系および海岸域では県南部から北部まで均一的に分布しているように見える。

2. まとめ

平成 28 年度の夏期「繁殖後」の全県下での河川流域および海岸域では 2,119 羽を確認した。平成 14 年からのデータと比較すると以下表になる。

表－4

調査年度	H14年	H18年	H20年	H27年	H28年
確認羽数	1,648	1,318	1,330	2,282	2,119

平成 20 年ごろも、カワウが増えたとして大きな問題になっていました。その羽数が 1,330 羽であった。それがさらに増えて、平成 27 年には、2,282 羽をそして今年平成 28 年には 2,119 羽を数えました。やはり岡山での夏期に生息するカワウの羽数は 10 年前より 1 千羽ちかく増えていることとなります。

(完)